

## 寒中お見舞い申し上げます

横浜支部会員・賛助会員皆様

新春を迎え早一月が過ぎますが、横浜支部の皆さまにおかれましては新たな展開と未来への展望に期待をもってお過ごしのことと存じます。

また日頃より温かいご支援をいただいております支部会員並びに賛助会員の皆さまに対し深甚なる謝意を申し上げます。次第です。

本年も地域に貢献できる支部を目指し、新しい企画等を通じ、会員相互の更なる結束を強めて努力を重ねて参りたいと存じます。まだ寒さも続きますのでご自愛いただきたいと願います。皆さまのご活躍を心より祈念申し上げます。

平成二十一年

横浜支部長 南 利幸

タイトル	1
港湾都市の魅力 陣内秀信・国吉直行 ○技術・情報サロン	2 3
第14回ハイキング紀行 鍋割山	4 5
黒壁の蓄熱効果 ○技術・情報委員 田川尚吾	6
日帰りバスツアー ○厚生委員会	7
第25回ワイン同好会	8
川村記念美術館見学と 自然散策路でのスケッチ ○絵画同好会	9 10 11
テニス同好会だより	12 13
○おしらせ 住宅相談キャラバン隊 登録者募集！！	14



## 港湾都市の魅力

陣内秀信氏×国吉直行氏

技術・情報サロン

2008年10月25日(土)

横浜市開港記念会館

来年には開港150周年を迎えるため、「港湾都市の魅力」というタイトルで法政大学の陣内先生をお招きし、技術・情報サロンを開催しました。横浜側のホスト役を、都市デザイン室の国吉氏にお願いしたところ、快諾。実はお二人、若い頃からの知り合いだったそうです。



最初に、陣内先生のレクチャー。最近元気な地中海の港湾都市をいくつか挙げられました。抜粋しますと、

- ・ ヴェネツィア — キャンナル＝グランデを中心に、陸地の深部まで水辺が毛細血管のように入り込んだ結果、町全体が港湾。14世紀には経済の中心だったが、現在は巨大な文化都市かつコンベンションセンター。映画祭やビエンナーレといったイベントもすっかり定着し、観光客(リピーター)をしっかりと確保。
- ・ アマルフィ — 斜面都市。車の入れない反バリアフリーな港湾都市。しかし、頂きからの海の風景は、レイヤが何層にも重なり、それが神秘的でまるで迷宮。今、「分かりにくさ」が都市の魅力になっている。

と、話題は比較的小さな都市から始まり、次第に、ジェノバ、マルセイユ、ビルバオといった横浜に匹

敵する大都市に話題が展開。いずれの都市でも工業化時代の負の産物、埋め立て地を、官民一体となって再開発しているそうで、横浜の場合だと、それは三菱重工に対して行った横浜市のみなどみらい政策に該当するようです。

脱工業化時代（現代）の水辺のあり方は、大企業や行政ではなく一般市民に開放されるべきである。というのが陣内先生の主張です。例として先月まで訪れていたボストンを挙げられましたが、そこでは水辺の個人住宅（私有地）の一階部分までも、一般市民のジョギングコースが貫通しているようで、それにはとても感動したそうです。

国吉氏によれば、横浜の水際線はその25%が一般市民に開放されているそうです。これは全国的にはかなり高い水準なのですが、欧米に比べるとまだまだ低いようで、現在は、黄金町あたりの大岡川沿いで、大規模な水辺のプロジェクトを計画中、とのことでした。



講演の最後に、陣内先生は、あるエピソードを紹介されました。ベネチアの国際会議である日本人が「ヨーロッパの港には、ライフジャケットの着用義務はないのか？」と質問したそうで、先生はそれがとても恥ずかしかったそうです。水は危険と決め付け、水辺との距離を取り過ぎて整備を進めてしまった東京都の施策にも、ちょっと困っているのだとか。

最近では自動車の後部座席にもシートベルトが義務付けられたわが国にもお小言。なるほど、安心・安全が声高に唱えられ、自己責任という概念が消えつつある風潮だと、水辺はどんどん遠くに行ってしまうそうです。

会場からは2点ほどの質問が飛び出しました。

- ・ 帆船（ヨット）が横浜港にいないのはなぜか？ — 理由は海上保安庁にあるそうです。船舶の往来が激しい横浜港付近では、エンジンを搭載していない船舶の航行は原則として禁止。高速道路を自転車で走行してはいけない理由と同じだと思いました。しかし、横浜国大のボート部などに対しては、保安庁も大目に見ているそうです。
- ・ 今でも埋め立てを行っている国はあるのか？ — 埋め立てが歴史といっても過言ではないオランダを除き、現在ではほとんどの国が埋め立てという行為をやめたそうです。まさに世界中で河川や海の環境に配慮している現在、工業化時代の産物でもある京浜工業地帯が、これからどのように変貌していくのか、楽しみです。

（技術・情報委員会）

# 第14回ハイキング紀行

『鍋割山』

大西 正行



今回は車で、取り付きの「表丹沢県民の森」まで行き、それからの登山となる。表丹沢県民の森へは、最寄駅の渋沢駅よりバスで「みくるべ」まで乗り、そこからは徒歩で約4キロの車道を歩いても良い。あとは四十八瀬川を渡って、大倉から続いている西山林道と出会う三差路を左方向・二俣へ向かう。ここは逆方向の西山林道を通り、大倉へ向かい、「県立秦野戸川公園」を目的地とするコースもある。川沿いの林道を緩やかに進んで、約八キロ・三時間の行程である。

県民の森より二俣までは「勘七橋」を渡り、ゲートを抜けて約30分で着く。



ここからは「後沢乗越」までが約1時間で標高差約200メートルで、そこから鍋割山頂上までは約2時間・標高差約400メートルである。登山道は結構急となっているが、案内標識の番号順に行くと1から10の数字となる。

途中は振り返ると熱海方向の海が正午手前の陽ざしで輝いている。初島・大島・利島あたりが見える。そして、頂上手前では富士山の威容が、今、歩いて



いる登山道の標高が上がると共に大きく表われてくる。裾野までがきれいに見える。左手は「愛鷹山」、右手は南アルプスとなる。この景色はもちろん頂上でゆっくりとさらに視界を広げて堪能できる。

頂上の鍋割山荘では鍋焼きうどんが名物で980円で食せられる。この値段は実に安く感じられ、わざわざこの鍋焼きうどんを食べに登る人もいると聞く。

下りは、来た道とは逆の「塔の岳」方面に行く。小丸を経てブナの尾根道を「二俣分岐」まで約50分歩く。

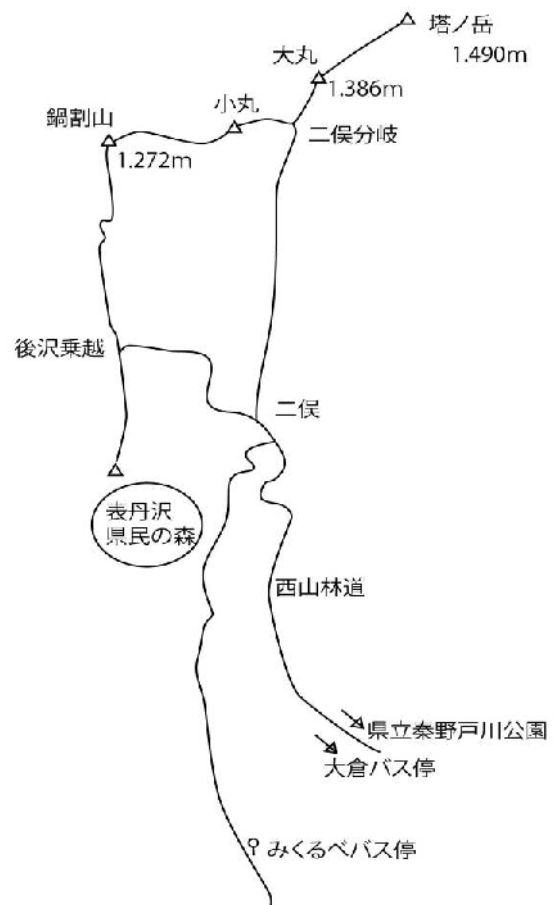
ここからは「二俣」まで一気に下って行く。約2時間と少しで着くはずだが、ここの行程は要注意となる。案内標識が1つもなく、よく枝に結んであるリボンも見当たらない。しかし道ははっきりと見えている。このことがかえって、皆を油断させたようだ。途中で我々を追い抜いた20人ほどの団体が、落ち葉を踏み分けた足跡



を十分につけた。その後を、我々は考えることなく追ってしまった。が、先の団体の後ろの方を歩いていた人たちだろうか・一部の人が戻ってきて、先頭が崖を降りてしまったようで戻れず、既に救助隊を呼んだとのことである。我々の後ろにも何組か付いてきていたが、すぐに本来の登山道へと戻ることになった。

ここは確かに迷いやすい所らしく、途中、救助隊とすれ違ったが、団体のいる場所など聞かれることもなく救助隊は十分見当が付いているようであった。

時刻は既に4時になっており、谷は暗くなっている。今回、反省するべきは十分あった。



## 黒壁の蓄熱効果



横浜支部の委員の間では、数人でオープンハウスの見学に行くことがあります。数日前あたりから「この日にあるよ」というメールが飛び交い始め、空いている人で気楽に出かける、そんな数人程度の見学会です。

先日、環境建築でも有名な中村勉さんからメールがふらっと入り、こちらもふらっと金沢文庫の住宅街へ、おじゃましてきました。



勉さんからのお誘い文句は、「トロンプウォールを立て、耐震を兼ねた蓄熱壁として冬の暖房を行うゼロカーボンハウス」。

何だかとてもアカデミックな感じがして、少々緊張気味に訪問しましたが、待ち構えていたのは、吹き抜けにそびえる「大黒柱」ならぬ「大黒壁」。写真では巨大にみえますが、実際はあまり威圧感もない、とても不思議な壁でした。

真南につき出した庇で、直射日光をコントロールするそうで、太陽高度の低い冬は、黒壁が熱せられ、それが放熱してぽかぽかに……。高度の高い夏には、黒壁はずっと日陰なので、壁はヒヤヒヤ、という環境のパッシブデザインです。

(技術・情報委員 田川尚吾)

厚生委員会企画 日帰りバスツアーに参加して

10月29日(水)の早朝、横浜駅前天理ビルを20数名で出発しました。最初の見学は築地市場です。現在の場所に昭和10年に開設。既に70年以上続いているそうです。平成17年度実績で、一日平均3,500トンの魚や野菜等が入荷し、約21億円の取引のある日本最大の魚市場です。市場の朝は早く、前日の夕方5時頃から夜中に魚を積んだトラックが集まります。午前3時に「仲卸業者」や「売買参加者」の方が下見・値段の検討をしてセリに備えます。セリの始まりは午前5時です。午前8時頃に街の魚屋さん・料理屋さんが仲卸業者のお店に買物に来ます。午前11時頃になるとそろそろ閉店の時間になります。大変活気のある所です。私は朝早く、朝食抜きでしたので「海鮮丼」を頂きました。新鮮で美味



しかったです。隣接している築地本願寺は元和3(1617)年、西本願寺の別院として浅草近くの横山

町に建立、明暦3(1657)年歴史的に有名な振袖火事で焼失しました。その後、延宝(1679)年に現在の地に再建、さらに関東大震災で崩壊。本堂の再建は東京(帝国)大学工学部教授伊藤忠太博士の設計によるものです。古代インド様式で昭和6年

(1931)年に起工、三年後の昭和9(1934)年に落成し現在に至っています。本堂には昭和45(1970)年に(財)仏教伝道協会(故沼田恵範理事)寄進のパイプオルガンが設置されています。イス式で靴を脱ぐ事もなく中に入り、イスに座って御本尊



尊を見ていると教会の様に感じました。次は国会議事堂の見学です。「SRC造、延床面積：5万3466㎡、地上3階、地下1階、中央塔4階(塔屋最上部9階)、高さ：両翼20.91m、中央塔65.45m、幅：206.36m、奥行き：88.63m、着工：1920年1月30日、竣工：1936年11月7日、総工事費：完成当時の金額で約2573万6000円、」外装、内装共石積み、石張りで石材は日本全国から取り寄せたそうです。建材や設備の素材のほとんどが国産品で、国会内のポスト、ドアの鍵、ステンドグラスの3点がアメリカ、イギリス製の事で、私は日本にこんなに色々な種類の石があったのに驚きでした。

(勉強不足)建築的には丁寧な仕事を見せて頂いた思いです。議事堂の庭に、1970年に植樹された47都道府県の「県の木」の散歩道があり、色々な木を見て話に花が咲きました。神奈川県は「銀杏」の木です。そろそろお腹もすき、有明の「トラットリア アルポルト」(イタリア料理)片岡護シェフプロデュースのお店でランチを頂きました。料理の鉄人のお店でリーズナブルな食事ができ得した気分です。次に向った所は、深川江戸資料館です。昭和61年にオープンした施設で、三層にわたる高い吹き抜けに、江戸時代末期の深川佐賀町の町並みを再現した展示室等を備えています。大店肥料問屋、八百屋、米屋、米屋の土蔵、船宿、火の見櫓、茶屋、屋台、掘割、長屋、共同井戸、廁等が、復元されています。長屋内の一戸あたりの大きさは9尺2間で、戸を開けると全て見通せます。そういえば何かの本で、昔は庶民の家に玄関は無く、玄関付き住宅の歴史は近代に入ってからと書いてあったのを思い出しました。ここに家族全員で暮していたんだ……。最後は柴又に行きました。帝釈天と寅さん資料館の見学です。寅さんの映画は何度か見っていますが、映画ポスターの沢山のマドンナを見て、色々な人が出ていたんだと改めて寅さん人気に感心です。資料館は江戸川の近くにあり、私は最後に「野菊の墓」の矢切りの渡しを見に行きました。夕方5時頃で戻って来る船がないとの事で、渡し船には乗れませんでした。(小舟で見た目心配)日帰りツアーは、色々盛り沢山の企画で楽しい一日でした。厚生委員の皆様、ありがとうございます。 菊地紀代子

## 第25回ワイン同好会を開催

ワイン同好会 長井 邦夫

晩秋の漂う11月6日(木)、本牧のある隠れ家的なレストランで25名の参加のもとに開催された。交通の便が悪いのが難点だが、シェフの食材へのこだわりで魅了され、あえてこの店を選んだ。辿りつくまで往生した人も何人かいたし、また、他支部からの参加がなかったのが立地ゆえの理由であれば残念だ。しかし、初参加者も数人いたので、それだけ新鮮味溢れる会ともなった。気候の変化の激しい時期にしては、暑くもなく、寒くもなく、程良い環境に恵まれた。

ワインの選考は私に任せられ、気分転換には持って来いとなり、張り切った顛末は「リーズナブル」な会を通り越し、予算オーバー。今回、出席した人は得したかも知れないが、最近の円高(1ユーロ≒120円)時に購入出来れば帳尻が合っていたかも知れない。

一方、料理は前日に獲れたサロマ湖の牡蠣が出たのには驚いたし、また、乾燥されたイチジクは白ワインには良い相性となった。このレストランは夫婦で切り盛りされていて、コンビネーションも良く、我々への気配りも上々だった。

秋の夜長を適度なざわめきで過ごす2時間半は至福さえ覚えるが、そういうときは瞬間に過ぎ去るものだ。そして、閉会のあと、名残惜しそうに帰る姿には「ああ、良い会だったか?」とひとり安堵感に浸るのだった。

第1回目が開催されてから、ちょうど10年持ち堪えた。次回は来年4月の桜の咲く頃の予定。他支部にも声をかけ、さらに楽しさに加えて意義ある会としたい。

今回提供したワインは以下のとおり。(会費は6千円)。

1. グレーコ・ディ・トゥーフォ '06 (伊) 白
2. ピュリニー・モンラッシュ '02 (仏・ブルゴーニュ) 赤 (ポール・ペルノ)
3. ボーヌ・クロ・デズールシュル '00 (仏・ブルゴーニュ) 赤 (ルイ・ジャドー)
4. シャトー・コス・ラボリー '96 (仏・ボルドー) 赤 (格付第5級)
5. シャトー・ラ・ドミニク '97 (仏・ボルドー) 赤





## 川村記念美術館見学と 自然散策路でのスケッチ

『絵画同好会・スケッチ会』

藤井 利時

2008年6月7日(土)8時30分 JR横須賀線(総武線)横浜駅上りホーム集合、  
4名参加

午前中、川村記念美術館(千葉県佐倉市)見学後、庭園の緑を眺めながら、レストラン「ベルヴェデーレ」で昼食、中々の美味。

美しい庭園なので、散策しながらスケッチ場所を探す。ここは約30ヘクタールの緑豊かな庭園内には、二羽の白鳥が遊ぶ池を中心にして、自然散策路と芝生の広場が有り、季節毎に、カタクリ、桜、ツツジ、睡蓮、花菖蒲、山ユリ、大賀蓮、等々が咲きます。散策後、各自の好みの場所でスケッチを始める。

閉館近くの16時30分に出口集合後、送迎バスで、JR佐倉駅へ。

横浜で、反省会后、解散。お疲れ様でした。



## 川村記念美術館

1990年 緑豊かな里山の地に開館し、増改築工事を終え 2008年3月にリニューアルオープンしたものです。コレクションの特色は17世紀のレンブラントによる



肖像画、モネやルノアールら印象派の絵画からピカソ、シャガールなどの西洋近代美術、日本の屏風絵、そして20世紀後半のアメリカ美術まで広いジャンルの作品を収蔵しています。とりわけ1940年以降のアメリカで興った抽象表現主義の代表作家ポロックの「緑・黒・黄褐色のコンポジション 1951年」ロスコの「シーグラム壁画群」の抽象絵画と新たな絵画空間を求め続けるステラ

の大型作品群が素晴らしい。更に今回のハイライトのひとつは、バーネット・ニューマンの「アンナの光」を一点のみ展示したニューマンルームです、赤い大画面の作品の左右に大きく開いたガラス窓から乳白色のスクリーン越しに屋外の樹木が透けて見え、作品、空間と風景の拡がり互いに呼応しているようです。このデザインは作品と建物と自然との調和を意図したものである。



付設されたレストラン「ベルヴェデーレ」にてランチ

美味しいワインとイタリアン、そして初夏の緑とさわやかな風と



藤井 利時 の作品



高杉 幹英 の作品



菊地 紀代子 の作品



高橋 伸廣 の作品

## ～お知らせ～

■ 桂離宮・修学院離宮・仙洞御所・京都御所・待庵、国宝巡り

■ 日 時 : 平成21年2月20日(金)



参加 40 名、全ての参拝許可がおりました。夕食は湯豆腐、宿泊は村野藤吾の都ホテルです。

参加者のみなさまは、2月20日朝7時の新幹線です。

### ■ 「住宅相談キャラバン隊登録者募集」のお知らせ

神奈川県建築士会では、先の中越地震・中越沖地震に関東ブロック協議会よりの要請を受け、キャラバン隊を派遣しました。

それに伴いキャラバン隊員の急遽募集の連絡方法を模索してきましたが、横浜支部では建築士会会員の皆様すべてにお知らせをするというのは無理がありますので、横浜支部としましては、「住宅相談キャラバン隊登録者」を募集して、名簿を備えておくということになりました。つきましては、「キャラバン隊登録者」にご応募くださるようお願いいたします。

ご応募の方は建築士会事務局までご連絡ください。

### ■ 広報委員会からのお知らせ～ 横浜支部 ブログへの投稿をお待ちしております!!!

新しくしました横浜支部のホームページのブログへ書き込む時の ID とパスワード (PW) です。

ID : yokohama-sibu      PW : blog4us

#### ● 横浜支部賛助会の皆様へ

頁の最下段に会社のロゴなどの広告掲載 (バナー形式) を無料にて実施いたしました。 広報委員会

#### □ バナー作成について

- ① バナーは、縦 35mm。横 105mm。解像度を 300pixel でお願いします。  
企業スローガンや、住所や電話番号を記載されても構いません。  
原稿はカラー (支部のホームページに記録)。実際に会員配布されるものは、白黒です。
- ② 広報委員会 (大貫) まで、メールにて送信。メールアドレス [ohnuki@dream.big.or.jp](mailto:ohnuki@dream.big.or.jp)
- ③ ご不明な点は、広報委員会 (大貫) までお問い合わせください。

**広告バナー (見本)**

(社) 神奈川県建築士会      横浜支部

編集者 (あいうえお順) 雨森隆子・大西正行・大北晋一郎・大貫 浩・小俣 隆・田川尚吾・玉野直美・橋本朝子・丸山幸一